

集中実習における満足度向上のための取り組み -九州大学高原実験実習場と鹿児島大学入来牧場との比較-

○衛藤哲次^{A)}, 石井大介^{B)}, 塩塚雄二^{A)}, 藤野亮一^{A)}

^{A)}九州大学高原農業実験実習場, ^{B)}鹿児島大学農学部附属農場入来牧場

1. 目的

本学から離れた農場(牧場)業務において多くのウェートを占めるのが学生集中実習である。同様の学生集中実習を開講している鹿児島大学入来牧場(以下、入来牧場)と共同で、学生実習の充実及び技術職員のスキル向上を図る目的で、共通項目を設けたアンケート調査を行った。両牧場の学生実習は、農学部の学生が大家畜等を直接扱う現場型の実習である。また本学から離れた遠隔地にあり3日間から7日間の宿泊を伴うことも共通している。両牧場の宿泊を伴う学生実習現場における講義や実習内容の習熟度や満足度に関して、一部共通部分を設けたアンケート調査を通して検討した。

2. 方法

実習を受講した学生にアンケート調査を行い、各実習項目、技術職員に関する評価、さらに宿泊に伴う実習についての評価コメントを収集した。また、実習内容の習熟度を調べるために実習前後に実習項目の理解度アンケートも実施した。両牧場の共通項目部分から集中実習の満足度を調査し比較検討した。

3. 結果

3.1 実習内容について

アンケート結果から多くの学生が集中実習に満足していることが窺えた(図1)。また、両牧場間で、回答の傾向に大きな違いはなかった。両牧場とも、学生が牛肉生産のすべてのステージ及び草地系の実習を直接体験できることにより学生を飽きさせない内容になっていること、また両牧場とも技術職員に対する評価が非常に高く、実習の指導説明が適格で学生にとって理解度が高いことも要因と推察された。

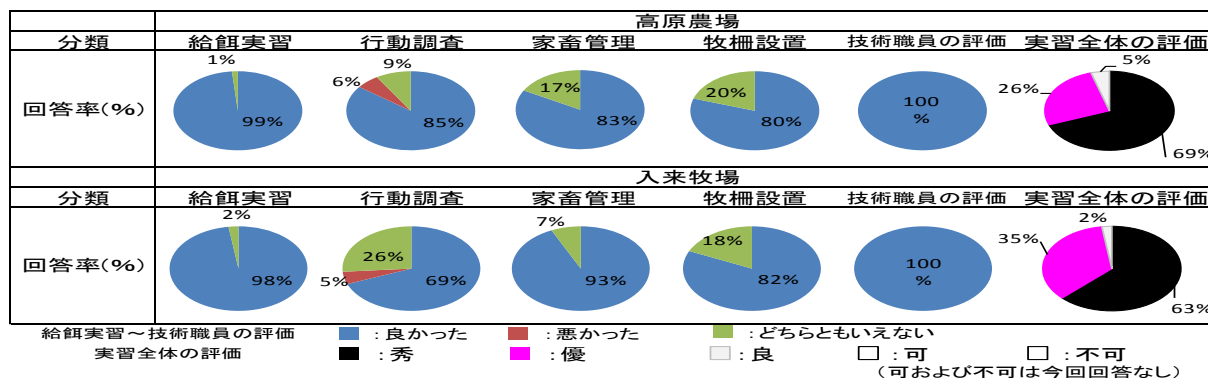


図1. 高原農場と入来牧場の実習内容ごとのアンケート調査結果

3.2 学生実習における宿泊について

評価の高さの要因として宿泊を伴ったことがあげられる。コメントを分析すると実習期間中に学生間でコミュニケーションを取りながら生活することで、社会性が訓練され、さらに3食の食事を協力して調理することで食に対する意識が変わったこと等からも窺がわれた。

4. 考察

今回アンケートを行ったことにより両牧場とも実習に対して充分満足しており高い評価を得ていることが明らかとなった。牧場における実習をどのように感じているかが明確に示された。コメントより実習のスタイルが宿泊であることが高い評価につながったことも窺えた。今後も共同でアンケート調査等を実施し、両牧場の連携を図り、さらに生産現場の変化に対応した実習及び独自性をも活かし実習教育の充実を図る予定である。